ごとう通信

第 71 号
平成 18 年 11 月 1 日

ようやく気分の良い秋になってきましたね。個人的には体調よく十一月に突入しました。でも、これからは年末モードです。これまた寂しい感じがします。

さて、十月は「いじめ」や高校の履修単位不足といった教育現場の問題が世間を騒がせましたね。人ごとのように考えると「今の教育はどうなってるんだ！」と言ってしまいそうです。しかし、問題はもっと根深いように思います。

今年の上半期は、いわゆるヒルズ族の凋落がマスコミの話題をさらいました。でも、彼らを持ち上げていたのもマスコミであり、社会であったはずです。結局彼らのやってきた「目的のためには手段選ばず」といった考え方は僕の最も嫌うところなのですが、高校が受験のために履修単位をごまかして卒業させようとした事件などは、まさに「目的のためには・・・」ということだと思います。学校はどんな人間を育てようと思ったのでしょうか。単に一流大学に受かることこそ高校の目的と見えてしまいます。しかし、その温床には学歴社会があることは間違いありません。

以前、ある大学の教授（僕の母校ではありません）に、「アメリカみたいに卒業するのが難しくしたら良いのに」と提案したところ、留年者が多いと「指導力不足」として文科省から大学が指導されるそうです。社会の構造は複雑です。

いずれにしろ、このような問題が生じた時、単に現場の問題とせず、社会の問題として、社会人の一人として考えなければいけませんね。「正しいことは絶対正しい、正しいことをやっていれば必ず報われる」社会であって欲しいものです。

領収証について

今年の十月から、医療機関の領収証の形式を「明細付き」にすることが義務付けられました。ふれあい歯科ごとうでも九月から準備を始め、外来診療の方にはすべて、訪問診療の方も多くの方に採用しています。このような形式なった目的は医療費を